

病態制御医学／小児科学 附属病院／小児科

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	眞弓光文	平成9年2月-
助教授	平岡政弘	昭和57年4月-平成17年8月(8月10日まで)
助教授	谷澤昭彦	平成5年4月- (平成17年8月11日より講師から昇任)
講師	塚原宏一	昭和63年6月-
講師	大嶋勇成	平成10年9月- (平成17年8月11日より助手から昇任)
助手	中井昭夫	平成3年11月-平成7年4月,平成10年4月-
助手	畑 郁江	平成12年7月-
助手	川谷正男	平成15年4月-
助手	田村知史	平成15年5月-
助手	小俣合歓子	平成17年8月-平成17年11月30日
助手	古畑律代	平成14年10月-平成15年3月,平成17年12月-

2. 研究概要

・領域の研究概要

小児科学領域は「免疫・アレルギー・呼吸器・感染部門」、「血液・腫瘍部門」、「腎・泌尿器部門」、「胎児・新生児・未熟児部門」、「神経・発達・生育・保健部門」、「内分泌・代謝・栄養・先天異常部門」、「循環器部門」の7つの部門の専門家を擁して、小児領域のほぼすべて疾患に関する教育、研究、診療を行っている。

・領域のキーワード

小児免疫・アレルギー・膠原病学、小児感染症学、小児腎・泌尿器学、小児血液学、小児腫瘍学、胎児医学、先天異常学、新生児医学、未熟児医学、発達小児科学、生育医学、小児神経学、小児保健学、小児社会医学、小児内分泌学、小児代謝・栄養学、遺伝・先天異常学、小児循環器学

・1年間の状況

「免疫・アレルギー・呼吸器・感染部門」

厚生労働科学研究免疫・アレルギー等研究事業「食物アレルギーの実態及び誘発物質の解明に関する研究」(分担研究者)、「アトピー性皮膚炎ガイドライン研究班」(研究協力者)、「気管支喘息治療・管理ガイドライン研究班」(研究協力者)、科学研究費補助金(基盤研究B)「胎児・胎盤機能を維持する分子機構の解明と周産期疾患の治療介入についての統合的研究」(研究代表者)、(基盤研究C)「末梢血線維細胞の機能解析による気道リモデリングの危険因子の同定と予防法の検討」(研究代表者)、独立行政法人環境再生保全機構委託「気管支ぜん息等の発症・増悪リスクとしての環境要因の寄与の程度に関する研究」

(分担研究者)、日本化学工業協会Long-range Research Initiative「内分泌攪乱物質がヘルパーT細胞分化におよぼす研究」(研究代表者)、受託研究「気道リモデリングを標的とした新規治療法の基礎的検討」などの研究、および、厚生労働科学研究評価委員、日本小児科学会編集委員、日本小児アレルギー学会編集委員長、日本アレルギー学会編集委員、日本小児アレルギー学会喘息ガイドライン委員会委員、日本小児アレルギー学会食物アレルギーガイドライン委員会委員などの活動を通して、小児アトピー性疾患の病因病態における食物アレルギーの関与の解明と新しい治療法の開発、ヘルパーT細胞の分化機構の解明とそのアレルギー疾患治療・予防への応用の可能性、気管支喘息の発症に関わる内分泌かく乱物質の影響の解明などの研究と共に、我が国の小児気管支喘息ガイドライン、アトピー性皮膚炎ガイドライン、食物アレルギーガイドラインの作成に中心的な役割を果たした。臨床では、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、小児膠原病を中心に、その

病態の解析やより有効な治療法の開発研究を行った。

「血液・腫瘍部門」

血液・腫瘍部門は日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)、日本小児白血病研究会(JACLS)参加施設として、白血病・悪性リンパ腫の最先端の臨床治療研究、また難治症例への造血幹細胞移植を取り入れた治療を行った。その診療のなかでの個々の症例の概要や知見について報告するとともに、急性リンパ性白血病の中樞神経再発や合併症について解析を行い知見を発表した。

「腎・泌尿器部門」

(1) Urinary tract infection、(2) Congenital urinary tract abnormalities、(3) Diabetes mellitus、(4) Renal functional assessmentに焦点を当てて臨床医学的研究を進めた。特に代表的な業績を以下に示す。(1) Urinary tract infection: 日常診療における乳幼児のUrinary tract infectionの診断のポイント、すなわち、臨床症状、発生頻度、起因菌、臨床検査、画像検査、診断、リスクファクター、合併症、外来診療での指針について、原著と総説による論文を発表した。(2) Congenital urinary tract abnormalities: 各種のCongenital urinary tract abnormalitiesが患者の腎機能に及ぼす影響について評価した研究成果を発表した。(3) Diabetes mellitus: Diabetes mellitusの病態生理、特に酸化ストレスマーカーに関する総説をJournal of Investigative Medicineに発表した。(4) Renal functional assessment: 近位尿細管、遠位尿細管のストレスマーカーであるL-FABP、GST-paiについて、それぞれ原著論文を発表した(以上の研究は科学研究費補助金: 基盤研究C、厚生労働科学研究費補助金による研究助成を受けて達成された。なお、上記研究のうち1、2の大部分は平岡政弘前助教授の業績である)。

「胎児・新生児・未熟児部門」

平成17年度は(1) Redox (patho)physiology、(2) Respiratory (patho)physiology、(3) Medical Imagingに焦点を当てて臨床医学的、基礎医学的研究を進めた。特に代表的な業績を以下に示す。(1) Redox (patho)physiology: 母乳は栄養素だけでなく様々な生理活性因子も含有する。われわれは重要な抗酸化因子であるNOx、thioredoxin、CoQ10、vitamin Eの母乳中濃度を計測し、それらの出産後変化の特徴を明らかにした。これらの抗酸化因子は出生直後の新生児が曝する酸化ストレスの亢進に対して防衛的に作用すると考えられた。また、この領域に関する総説をTrends in Developmental Biologyに著した(これらの業績に対して、塚原は財団法人森永奉仕会より『太田敬三記念賞』を受賞した)。(2) Respiratory (patho)physiology: 酸化ストレスの亢進は組織・細胞傷害性に作用し、気道や肺での急性・慢性炎症や過敏性を引き起こす。われわれはヒト肺微小血管内皮細胞において、抗酸化剤やNOによるレドックス制御がTNF-alpha / 酸化ストレス亢進 / NF-kB活性化 / 標的遺伝子誘導の炎症カスケードを効果的に遮断することを示した。レドックス療法が炎症性肺疾患の新たな治療手段の1つになる可能性が示唆された。また、未熟児慢性肺疾患のCurrent therapiesに関する総説をRecent Research Developments in Respiratory & Critical Care Medicineに著した。(3) Medical Imaging: わたしたちが以前から提唱していたMR拡散強調画像で認められる脳梁膨大部病変に関する総説をCurrent Medical Imaging Reviewsに著した。この症候群の存在が国際的に認知された。(以上の研究は厚生科学研究費補助金: 感覚器障害および免疫・アレルギー等研究事業、科学研究費補助金: 基盤研究B、財団法人森永奉仕会: 研究奨励金、福井大学: 全学競争的研究費による研究助成を受けて達成された。また、平成17年度も引き続き多くの研究論文の査読を担当した。査読した論文の総数は11、それらの雑誌の総インパクトファクターは36.5であった)。

「神経・発達・生育・保健部門」

臨床では、乳幼児健診、てんかん・脳性麻痺・筋ジストロフィーなどの小児神経・筋疾患に加え、注意欠陥多動性障害(AD/HD)、広汎性発達障害、学習障害、トゥレット障害などいわゆる軽度発達障害についても研究成果に基づいた臨床を行っている。平成17年4月に施行された「発達障害者支援法」にも謳われている発達障害に関する一般や専門職への知識の普及および啓発活動などについても精力的に行っている。不登校・ひきこもり、摂食障害、小児心身症、PTSDなど社会的にも重要な問題となっている様々な「子どものこころ」の問題についても、教育地域科学部教授松木健一先生、非常勤講師近藤隆司先生とともに、医療・教育・心理・福祉の連携など、チーム医療を行っている。また、AD/HDに対するノルアドレナリン再吸収阻害剤の効果と安全性、子宮内発育遅延(SGA)に対する成長ホルモン療法によるQOLの改善についての臨

床治療研究も行っている。研究では、1) 自然科学研究機構生理学研究所、日立基礎研究所との共同研究など機能的MRIや光トポグラフィーなどによる小児の高次脳機能の発達の画像化について行っている。2) McGill大学モントリオール神経研究所と共同で過敏性腸症候群における脳内セロトニン異常とその治療薬である5-HT3受容体拮抗剤での脳内セロトニンに対する効果の性差について世界で初めての画像化に成功した。3) 学内共同研究も、高エネルギー医学研究センター、教育地域科学部発達科学講座との発達障害についての脳機能画像研究、医学部看護学科との虐待防止のための体験・学習プログラムの作成とその科学的評価に関する研究などについて精力的に行っており、科研費や学内競争的配分研究費の獲得につながった。

「内分泌・代謝・栄養・先天異常部門」

タンデム質量分析計を用いた新生児代謝異常マススクリーニングのパイロットスタディ（日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) および厚生労働省科学研究費補助金・子ども家庭総合研究事業による）では、約30万新生児の中から34例の患児を診断し、このスクリーニングを日本全国に拡大する基盤を形成した。また、脂肪酸酸化異常症の化学診断およびフルクトース1-6ビスフォスファターゼ欠損症の酵素診断については、前年より引き続き、我が国における中心施設として全国各地の医療機関のみならず、インドや中国の研究機関からも分析依頼を受け付け、多数の患者の診断に貢献した。更に、有機酸代謝異常症患者の化学診断や治療評価のための生化学分析の成果を基に診断治療指針を作成した。先天異常・内分泌疾患の臨床研究では、高チロシン血症I型の治療法の検討および摂食障害に伴う成長障害に関する検討を行った。

「小児循環器部門」

臨床面においては（1）先天性心疾患の診断および心臓血管外科との連係による治療、（2）生後発症小児心疾患（不整脈、川崎病後冠動脈障害など）、（3）学童の心臓検診とそのフォローを行っている。小児循環器分野ではカテーテル治療の適応拡大が進んでおり、当科でも該当症例に対する治療を関連施設とともに施行している。基礎面では川崎病と酸化ストレス、新生児の循環動態についての研究を行っている。

・特色等

競争的外部資金の取得状況やその継続性からも明らかのように、小児科学のほぼすべての領域で優れた研究を実施し、その成果を外国雑誌を中心に世界に発信している。同時に、厚生労働科学研究費補助金取得に代表されるように、治療ガイドラインの策定や先天代謝異常症のスクリーニングなど、臨床に密着した、国民の健康の保全と向上に直接結びつく研究を継続して行っている。福井県の医療・保健行政に対し、関係する各種委員会の委員として参加することにより貢献するとともに、血液・腫瘍学領域は福井県唯一の骨髄移植認定施設として、骨髄移植治療成績の向上のための臨床研究を進め、国内外の大規模な専門施設にひけをとらない治療成績を上げている。新生児・未熟児部門は未熟児の障害なき生存を目指して研究を進め、超未熟児に対する優れた治療成績を上げており、福井県唯一の日本周産期新生児医学会認定の新生児専門医基幹研修施設である。神経・発達部門は小児科の積極的な関与が求められる「軽度発達障害」の児に対する支援を、教育地域学部との学際的・有機的な連携のもとに、積極的に行っている。このように、小児科学・小児医療の多くの分野で、地域の医学・医療の発展に大きく貢献している。

・本学の理念との関係

小児科学領域は、上述の研究概要、研究進展状況、特色に記載したごとく、本学の理念である先端的医療人および医学研究者の育成、世界をリードする水準の研究成果の創出、高度な医療の実践、のすべての項目において、それに合致した優れた活動を実施している。

3. 研究実績

区 分	編 数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2000～2005年分	2005年分	2000～2005年分	2005年分
和文原著論文	48	9	-----	-----

英文 論文	ファーストオーサー	79	14	143.265 (142.749)	26.645 (26.645)
	レスポ ンデ ィング オーサー	77	13	136.898 (136.382)	24.096 (24.096)
	その他	35	5	103.036 (95.671)	6.480 (4.352)
	合計	114	19	247.862 (239.981)	33.125 (30.997)

(ア) 著書・論文等

(1) 英文：著書等 (proceedingsを除く)

a. 著書 (分担執筆)

0531001

[Tsukahara, H.](#) : Oxidative stress and antioxidant defenses in neonatal biology, 1, 65-69. Vasoactive and natriuretic factors in neonatal biology, 1, 77-82. **Trends in Developmental Biology**. +Richard,R., ed; Research Trends, 2005.

0531002

[Tsukahara, H.](#) : Postnatal corticosteroid therapy for bronchopulmonary dysplasia in preterm infants: A neonatal clinical dilemma that demands a quick answer. **Recent Research Developments in Respiratory & Critical Care Medicine**. +Pandalai SG, ed; Research Signpost, 3, 37-48, 2005.

(2) 英文：論文等

a. 原著 (審査有)

0531003

[Mori, Y.](#), [Hiraoka, M.](#), +[Katsu, M.](#), [Tsukahara, H.](#), +[Mikami, Y.](#), [Mayumi, M.](#) : Marked renal damage in a child with hydronephrosis infected by Trichosporon asahii. *Pediatr Nephrol.* 20(2), 234-236, 2005,2. #1.440

0531004

[Todoroki, Y.](#), [Tsukahara, H.](#), [Ohshima, Y.](#), *[Shukunami, K.](#), *[Nishijima, K.](#), *[Kotsuji, F.](#), +[Hata, A.](#), +[Kasuga, K.](#), +[Sekine, K.](#), +[Nakamura, H.](#), +[Yodoi, J.](#), [Mayumi, M.](#) : Concentrations of thioredoxin, a redox-regulating protein, in umbilical cord blood and breast milk. *Free Radic Res.* 39(3), 291-297, 2005,3. #2.744

0531005

[Nakai, A.](#), +[Diksic, M.](#), +[Kumakura, Y.](#), +[D'Souza, D.](#), +[Kersey, K.](#) : The effects of the 5-HT3 antagonist, alosetron, on brain serotonin synthesis in patients with irritable bowel syndrome. *Neurogastroenterol Motil.* 17, 212-21, 2005,4. #2.549

0531006

[Suzuki, K.](#), [Ohshima, Y.](#), [Hata, I.](#), [Tsukahara, H.](#), [Omata, N.](#), +[Yasutomi, M.](#), [Yamada, A.](#), [Mayumi, M.](#) : Salivary-type hyperamylasemia in theophylline poisoning. *Pediatrics International.* 47(2), 209-210, 2005,4 #0.580

0531007

[Jiang MZ](#), [Tsukahara, H.](#), +[Hayakawa, K.](#), [Todoroki, Y.](#), [Tamura, S.](#), [Ohshima, Y.](#), [Hiraoka, M.](#), [Mayumi, M.](#) : Effects of antioxidants and NO on TNF- α -induced adhesion molecule expression in human pulmonary microvascular endothelial cells. *Respir Med.* 99(5), 580-591, 2005,5. #1.511

0531008

[Tsukahara, H.](#), +[Sugaya, T.](#), +[Hayakawa, K.](#), [Mori, Y.](#), [Hiraoka, M.](#), +[Hata, A.](#), [Mayumi, M.](#) : Quantification of L-type fatty acid binding protein in the urine of preterm neonates. *Early Hum Dev.* 81(7), 643-646, 2005,7. #1.000

0531009

[Mori, Y.](#), [Tsukahara, H.](#), [Jiang MZ](#), [Mayumi, M.](#) : PDTC and NO suppress CC chemokine production in TNF- α -stimulated human pulmonary microvascular endothelial cells. *Respir Med.* 99(8), 1068-1069, 2005,8. #1.511

0531010

[Tsukahara, H.](#), Toyooka,M., Kanaya,Y., Ogura,K., Kawatani,M., +Hata,A., Hiraoka,M., Mayumi,M. : Quantitation of glutathione S transferase- π in the urine of preterm neonates. *Pediatr Int.* 47(5), 528-531, 2005,10. #0.580

0531011

[Hiraoka,M.](#), *Hida,Y., Mori,Y., Tsukahara,H., Ohshima,Y., *Yoshida,H., Mayumi,M. : Quantitative unspun-urine microscopy as a quick, reliable examination for bacteriuria. *Scand J Lab Invest.* 65(2), 125-132, 2005. #1.039

0531012

*[Shigematsu Y.](#), Hata, I. , Tanaka, Y. , +Tajima, G. , +Sakura, N. , +Naito, E. , +Yorifuji, T. : Stable-isotope dilution gas chromatography-mass spectrometric measurement of 3-hydroxyglutaric acid, glutaric acid and related metabolites in body fluids of patients with glutaric aciduria type 1 found in newborn screening. *J Chromatogr B.* 823(1), 7-12, 2005. #2.176

0531013

+[Tajima, G.](#), +Sakura, N. , +Yofune, H. , +Nishimura, Y. , +Ono, H. , +Hasegawa, Y. , Hata, I. , +Kimura, M. , +Yamaguchi, S. , *Shigematsu, Y. , +Kobayashi, M. : Enzymatic diagnosis of medium-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency by detecting 2-octenoyl-CoA production using high-performance liquid chromatography: a practical confirmatory test for tandem mass spectrometry newborn screening in Japan. *J Chromatogr B.* 823(2), 122-30, 2005. #2.176

0531014

[Omata,N.](#), [Ohshima, Y.](#), [Yasutomi, M.](#), [Yamada,A.](#), +[Karasuyama,H.](#) , Mayumi, M. : Ovalbumin-specific IgE modulates ovalbumin-specific T cell response after repetitive oral antigen administration。 *J Allergy Clin Immunol.* 115, 822-827, 2005. #7.205

0531015

[Yasutomi, M.](#), [Ohshima, Y.](#) , [Omata,N.](#), [Yamada,A.](#), [Iwasaki,H.](#) , [Urasaki,Y.](#), Mayumi, M. : Erythromycin differentially inhibits LPS- or poly (I:C)-induced but not peptidoglycan-induced activation of human monocyte-derived dendritic cells. *J Immunol.* 175, 8069-8076, 2005.#6.486

b. 総説

0531016

+[Noiri,E.](#), [Tsukahara,H.](#) : Parameters for measurement of oxidative stress in diabetes mellitus: Applicability of enzyme-linked immunosorbent assay for clinical evaluation. *J Invest Med.* 53(4), 167-175, 2005,5. #2.128

0531017

[Mayumi, M.](#) : The Japanese pediatric guideline for the treatment and management of asthma. *Allergol. Int.* 54(2), 217-221, 2005.

0531018

+[Maeda, M.](#), [Tsukahara,H.](#) : Transient focal lesions in the splenium of the corpus callosum with restricted diffusion: An enigma. *Current Medical Imaging Reviews.* 1(3), 313-318, 2005.

c. その他 (報告書を含む)

0531019

*[Nishijima,K.](#), *[Shukunami,K.](#), [Tsukahara H.](#), *[Kotsuji,F.](#) : Conservative versus extirpative management in cases of placenta accreta. *Obstet Gynecol.*105(1), 220, 2005,1.

(3) 和文：著書等

a. 著書 (分担執筆)

0531020

+[野入英世](#), [塚原宏一](#) : ELISA解析と糖尿病. +[二木鋭雄](#), +[野口範子](#), +[内田浩二](#)(編) : 酸化ストレスマーカー. 学会出版センター, 230-242, 2005,5.

0531021

塚原宏一, 眞弓光文: ショック. +三河春樹, +松尾宣武, +森川昭廣(編), 小児救急の手引き下巻. 臨床医薬研究協会, 198-208, 2005,12.

0531022

眞弓光文: 398~402章. +衛藤義勝(監): ネルソン小児科学原著. 17版. エルゼビア・ジャパン(株), 第18部, 1485-1493, 2005.

0531023

大嶋勇成, 眞弓光文: 403~407・410章. +衛藤義勝(監): ネルソン小児科学原著. 17版. エルゼビア・ジャパン(株), 第18部, 1493-1496, 1499-1450, 2005.

0531024

塚原宏一, 眞弓光文: 396~397・408~409・411~412章. +衛藤義勝(監): ネルソン小児科学原著. 17版. エルゼビア・ジャパン(株), 第18部, 1483-1485, 1496-1499, 1500-1503, 2005.

0531025

眞弓光文 (分担執筆): 食物アレルギーによるアナフィラキシー学校対応マニュアル. 日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会作成. 日本小児アレルギー学会 (監修). 財団法人日本学校保健会発行. 2005.

0531026

眞弓光文: 小児の食物アレルギー. 山口徹, 北原光夫(総編集): 今日の治療指針. 医学書院, 963, 2005.

0531027

眞弓光文: 食物アレルギーの治療と生活管理. 河野陽一(編): 最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 26 食物アレルギー 免疫4. 最新医学社, 140-146, 2005.

0531028

+向山徳子, +海老澤元宏, 眞弓光文, +河野陽一: 食物アレルギーの問題点と解決への方策 -ガイドライン作成に向けて-. 河野陽一(編): 最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 26 食物アレルギー 免疫4. 最新医学社, 254-263, 2005.

0531029

眞弓光文 (分担執筆): 食物アレルギー診療ガイドライン2005. 向山徳子, 西間三馨(監), 日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会作成, 協和企画, 2005.

0531030

眞弓光文 (分担執筆): 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2005. 森川昭廣, 西間三馨(監), 日本小児アレルギー学会作成, 協和企画, 2005.

0531031

平岡政弘: 排尿回数. 小児科 数値から見る小児の成長と発達-表で見る身体の基準値-. 金原出版, 46(別冊), 77, 2005.

(4) 和文: 論文等

a. 原著 (審査有)

0531032

小倉一将, 塚原宏一, 巨田尚子, 佐藤周子, 古畑律代, 田村知史, 谷澤昭彦, 眞弓光文: 生直後に著明な赤芽球増加, 低血糖を呈した胎児水腫の極低出生体重児例. 小児科臨床. 58(8), 1691-1695, 2005, 8

0531033

+豊島勝昭, ++渡辺達也, +川滝元良, +柴崎淳, 古畑律代, +埴田卓志, +小林正樹, +松井潔, +星野陸夫, +大山牧子, +猪谷泰史, +康井制洋, +中澤誠: Stress-Velocity関係を指標として循環管理した在胎23,24週の超早産児の検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 41(3), 535-542, 2005,8.

0531034

*佐々木綾子, 中井昭夫, *松木健一, *田邊美智子, 眞弓光文: 母性を育てる学習プログラム開発のための基礎的研究 -心理・生理・内分泌による乳幼児とのふれあい体験の評価-. 福井大学

医学部研究雑誌. 6, 27-39, 2005,12.

0531035

+向山徳子, +有田昌彦, +伊藤節子, +宇理須厚雄, +海老澤元宏, +小倉英郎, +河野陽一, +近藤直実, +柴田留美子, +古庄巻史, 眞弓光文: 食物アレルギー委員会報告「食物に起因するアナフィラキシー症状既往患児の保護者に対するアンケート調査」. 日本小児アレルギー学会誌. 19(1), 96-109, 2005.

0531036

畑郁江, *重松陽介: NTBC無効であったチロシン血症1型の1女児例: 新生児マススクリーニングの問題点. 日本マス・スクリーニング学会誌, 15(3), 27-31, 2005.

0531037

+浅沼伸行, +藤重夫, +北村哲宏, +稲葉真希子, +大月道夫, 畑郁江, *重松陽介, +幸原晴彦, +笠山宗正: 新生児期より低血糖発作を繰り返し成人後に診断されたフルクトース-1,6-ビスフォスファターゼ欠損症の1例. Diabetes Journal(糖尿病と代謝). 33(1), 13-16, 2005.

0531038

*重松陽介, 畑郁江: タンデム質量分析新生児マススクリーニングのピットフォール. 日本マス・スクリーニング学会誌. 15(1), 13-18, 2005.

0531039

平岡政弘, +河村一郎, +中村英夫, +土田晋也, +橋本剛太郎: 小児科医院における上部尿路感染症の診断. 日本小児科学会雑誌. 109(8), 1015-1021, 2005.

0531040

中井昭夫: 自閉症スペクトルにおける顔・表情認知—脳機能画像法による研究—. 日本赤ちゃん学会雑誌「ベビーサイエンス」. 5, 15-17, 2005.

b. 総説

0531041

平岡政弘: 尿路感染症に対する抗菌薬療法. 特集「多角的な視野が求められるこれからの抗菌薬療法」. 小児内科. 37(2), 221-223, 2005,2.

0531042

平岡政弘: 腎盂腎炎を発症した膀胱尿管逆流症に対して予防的抗菌薬長期療法は有効か?. 小児内科. 37(3), 389-391, 2005,3.

0531043

塚原宏一, 眞弓光文: 各種疾患におけるレドックス制御とその異常. アレルギー・免疫. 12(5), 733-737, 2005,5.

0531044

塚原宏一, 大嶋勇成: ペプチド分解乳で牛乳アレルギーの予防ができるのか? 母乳はアトピー性皮膚炎に良くないのか?. 小児内科. 37(5), 677-680, 2005,5.

0531045

山田彰子, 眞弓光文: ペットがいると喘息が悪化する? 特集 喘息治療のいま. Q&Aでわかるアレルギー疾患. 1(1), 32-33, 2005. 6.

0531046

平岡政弘: 腎尿路には奇形が多い?. 小児科臨床. 58(8), 2005-2008, 2005,8.

0531047

塚原宏一: 免疫・炎症性疾患におけるレドックス・マーカーの現況. 臨床病理. 53(8), 759-767, 2005,8.

0531048

平岡政弘: 単腎症の頻度と分類、発生機序. 日本医事新報. 4252,91-93,2005,10.

0531049

塚原宏一, +塚原康代. 栄養補助物質の使用: ビタミンの補充. 周産期医学. 35(増刊号), 474-483, 2005,11.

0531050

塚原宏一：早産児の代謝性骨疾患. 周産期医学. 35, 1671-1679, 2005,12.

0531051

大嶋勇成：経口免疫寛容誘導. Medical Tribune. 38(51,52),24, 2005,12.

0531052

眞弓光文：喘息治療ガイドライン；小児. 気管支喘息の治療 最近の進歩. 救急医学. 29(2), 133-138, 2005.

0531053

眞弓光文（編集）：特集 アレルギー・免疫疾患とレドックス制御. アレルギー・免疫. 12(5), 9-61, 2005.

0531054

眞弓光文：IgE依存型（アトピー型）喘息（小児期）. 特集小児アレルギー疾患のABC. 小児科診療. 68(8), 1447-1451, 2005.

0531055

眞弓光文：疾病における栄養管理 アレルギー疾患. 特集内科医に必要な栄養管理の知識. 診断と治療. 93(10), 1815-1818, 2005.

0531056

眞弓光文：喘息治療のエッセンシャルズ 小児（特に学童）喘息について. 特集気管支喘息の最新治療. 診断と治療. 93(11):1937-1942, 2005.

0531057

大嶋勇成：小児喘息における気道リモデリング. アレルギーの臨床. 25, 158, 2005,

0531058

大嶋勇成：Th1/Th2バランス. 小児科臨床. 58, 457-460, 2005,

0531059

大嶋勇成：免疫アレルギー検査、サイトカイン Th1系 (IL-1, IFN-gamma), Th2系(IL-4,IL-5), IL-6, IL-10, IL-12, TGF-beta. 小児内科. 37, s301-306, 2005,

0531060

大嶋勇成：I型アレルギーにおける樹状細胞の役割. 臨床免疫. 46, 717-721, 2005,

0531061

塚原宏一, 大嶋勇成：ペプチド分解乳で牛乳アレルギーの予防ができるのか？母乳はアトピー性皮膚炎に良くないのか？. 小児内科. 37, 677, 2005,

0531062

大嶋勇成：喘息と患者教育：Educational Aspect乳幼児の吸入療法と保護者への教育 Int Rev Asthma. 7, 54-60, 2005,

0531063

大嶋勇成：アレルギーマーチとIgE. アレルギー科. 20, 486-490, 2005,

0531064

*重松陽介, 畑郁江, *田中幸枝：タンデム質量分析法による新生児マススクリーニング. J Mass Spectrom Soc Jpn. 53(3), 133-136, 2005.

0531065

*重松陽介, 畑郁江, *田中幸枝：質量分析と代謝異常症化学診断. 化学工業. 56(8), 7-12, 2005.

c. その他（報告書を含む）**0531066**

塚原宏一, 大嶋勇成：病的新生児、特に超低出生体重児の『後遺症なき生存』を目指して：当院未熟児診療部における『レドックス（抗酸化ストレス）療法』の推進とその評価. 福井大学重点研究成果報告書. 80-81, 2005,3.

0531067

*重松陽介, 畑郁江：タンデム質量分析新生児マススクリーニング・パイロットスタディの実績報

告. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金(子どもの家庭総合研究事業)総括・分担研究報告書. 83-86, 2005,3.

0531068

畑郁江, 重松陽介: 新生児濾紙血を用いたチロシン血症 I 型のマス・スクリーニングの試み. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金(子どもの家庭総合研究事業)総括・分担研究報告書. 87-89, 2005,3.

0531069

平岡政弘, 塚原宏一: 腎尿路異常の早期発見のための3歳児検尿の施行法および費用対便益の検討. 平成16年度科学研究費補助金基盤研究C(2)実績報告書. 2005.

0531070

眞弓光文, 大嶋勇成: アレルギー性疾患の発症危険因子の同定と予防対策の検討. 福井大学重点研究成果集2005:明日への挑戦, 44-45, 2005, 5.

0531071

眞弓光文: 海外の小児喘息治療と日本の実際. メディカルトーク No.83小児アレルギーのよりよい治療を目指して 5. 週刊朝日, 110-111, 2005.9.

0531072

+橋本剛太郎, +加藤英治, +清水紘昭, 塚原宏一, +寺尾正: 会報編集委員会: 報告と編集後記. 平成17年度福井県小児科医会会報, 34(10), 2005,9.

0531073

眞弓光文, 大嶋勇成, 塚原宏一: 環境ホルモンの影響に関する検討. 独立行政法人環境再生保全機構 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書: 気管支ぜん息等の発症・増悪リスクとしての環境要因の寄与の程度に関する研究報告書2004年度工藤翔二研究班報告書, 61-71, 2005, 3.

0531074

大嶋勇成: 内分泌攪乱物質がヘルパーT細胞分化に及ぼす影響—アレルギー性疾患増加との関係—. 日本化学工業協会 LRI研究概要(第4期), 31, 2005,

0531075

大嶋勇成: 食物アレルギー実験モデルにおける予防・寛解誘導に関する研究. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金: 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書. 2005/第3分冊,82-84,

0531076

塚原宏一: 周産期のレドックス制御: 特に母乳の抗酸化作用の分析についての研究. 2003年度財団法人森永奉仕会研究奨励金成果報告書. 2005.

(イ) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

0531077

Mayumi, M., Omata, N., Yasutomi, M., Yamada, A., Sato, S., +Karasuyama, H., Ohshima, Y.: Mucosal tolerance and immunity. APAPARI-KAPARD Joint Congress 2005, 2005,4, Seoul.

b. 一般講演等

0531078

Mayumi, M, Ohshima, Y., Omata, N., Yamada, A., Sato, S., Yasutomi, M., + Karasuyama, H.: Ovalbumin-specific IgE modulates ovalbumin-specific T cell response after repetitive oral antigen administration. The 19th World Allergy Organization Congress, 2005,6.Munich.

0531079

*Kawamura, Y., *Watanabe, K., Tsukahara, H., Mayumi, M., *Itoh, H.: Presumable cause of reversible MR signal changes in the splenium of the corpus callosum in miscellaneous pathology: Assessed by diffusion-weighted MR images and MR spectroscopy. 43rd Annual Meeting of American Society of Neuroradiology,

2005,5, Toronto.

0531080

+Maeda,M., Tsukahara,H., +Terada,H., +Takeda,K. : Transient lesion in the splenium of the corpus callosum with restricted diffusion: An enigma. 43rd Annual Meeting of American Society of Neuroradiology, 2005,5, Toronto.

(2) 国内学会 (全国レベル)

a. 招待・特別講演等

0531081

眞弓光文：小児アレルギー疾患の病態と治療。日本医師会生涯教育講座特別講演，2005,4, 前橋。

0531082

眞弓光文：小児喘息における治療の進歩。第55回日本アレルギー学会秋季学術大会教育セミナー,2005,10, 盛岡。

0531083

眞弓光文：小児アレルギー診療の新たな地平を目指して。第42回日本小児アレルギー学会会長講演，2005,11, 福井。

b. シンポジスト・パネリスト等

0531084

大嶋勇成：樹状細胞の役割 第13回小児臨床薬理・アレルギー・免疫研究会シンポジウム，感染と喘息，2005,2, 高崎。

0531085

大嶋勇成：将来の治療（サイトカイン療法、抗体療法、免疫療法）。第12回小児気道アレルギー研究会シンポジウム，小児気道アレルギーのトピックス，2005, 4, 名古屋。

0531086

眞弓光文：予防・治療の問題点と方向性。第22回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会シンポジウム，アレルギー疾患の現状と展望，2005,5, 大阪。

0531087

大嶋勇成：動物モデルを用いた食物アレルギーの解析。第17回日本アレルギー学会春季臨床大会シンポジウム，食物アレルギーの現状と対策，2005,6, 岡山。

0531088

眞弓光文：小児喘息におけるICSの有用性と位置づけ。第17回日本アレルギー学会春季臨床大会イブニングシンポジウム，吸入ステロイド薬の選択：EBMの立場から，2005,6, 岡山。

0531089

*重松陽介, 畑郁江, *田中幸枝：MS/MS新生児マススクリーニングの方法論と倫理的側面-対象疾患の理解と対応。第33回日本医用マスペクトル学会。MSによる代謝異常症マススクリーニングの現状とこれから。2005,9, 大阪。第30回日本医用マスペクトル学会年会プログラム・抄録集，23,2005。

0531090

大嶋勇成：胎内感作とアトピー素因-胎内感作によってアレルギー性疾患の発症が規定せれるか-。第55回日本アレルギー学会秋季学術大会シンポジウム，乳幼児の免疫機構とアレルギー疾患，2005,10, 盛岡。

0531091

大嶋勇成：経口免疫寛容の可能性。第42回日本小児アレルギー学会シンポジウム，食物アレルギーガイドライン，2005,11, 福井。

c. 一般講演等

0531092

+高梨潤一, +多田弘子, +Barkovich AJ, +大場洋, +前田正幸, 塚原宏一, +鈴木基正, +山本俊至, +下野太

郎, +田岡俊昭, +河野陽一: 一過性脳梁膨大部病変を有する脳炎・脳症の検討: A New Clinicoradiological Syndrome. 第34回日本神経放射線学会, 2005,2, 名古屋.

0531093

*重松陽介, 畑郁江, +但馬剛, +佐倉伸夫, +内藤悦雄, +岡野善行: タンデム質量分析新生児マススクリーニング実績と対象疾患の検討. 第108回日本小児科学会学術集会. 2005, 4.東京. 日本小児科学会雑誌, 109(2); 169,2005.

0531094

川谷正男, 小俣合歓子, 中井昭夫, 谷澤昭彦, 眞弓光文, *赤木好男: 急性散在性脳脊髄炎(ADEM)の治療中に視神経炎を発症した1例 多発性硬化症(MS)との異同について. 第108回日本小児科学会学術集会. 2005,4, 東京. 日本小児科学会雑誌, 109, 4(2), 575, 2005,4.

0531095

川谷正男, 中井昭夫, +平谷美智夫: 軽度発達障害に関する臨床的研究(第二報) —注意欠陥/多動性障害と診断されていた広汎性発達障害の乳幼児期異常行動に関する検討—. 第47回日本小児神経学会, 2005,5. 熊本. 脳と発達. 37, S316, 2005.

0531096

川谷正男, 鈴木孝二, 中井昭夫, 塚原宏一, 谷澤昭彦: 拡散強調画像(DWI)にて脳梁膨大部、半卵円中心に可逆的な信号異常を認めた4例. 第47回日本小児神経学会, 2005,5, 熊本. 脳と発達. 37, S301, 2005,5.

0531097

中井昭夫, +Diksic, M. : α -Methy-Tryptophan PETによる過敏性腸症候群における脳内セロトニン合成能の検討. 第47回日本小児神経学会, 2005,5, 熊本. 脳と発達. 37, S214, 2005.

0531098

Tsukahara,H., +Sekine,K., +Miura,M., Mori,Y., Hiraoka,M. : Concentrations of pentosidine, an advanced glycation end-product, in umbilical cord blood. 第48回日本腎臓学会学術総会, 2005,6, 横浜.

0531099

川谷正男, 中井昭夫, +清水聡, +河村佳保里, +内田彰夫, +平谷美智夫: 注意欠陥/多動性障害(AD/HD)から広汎性発達障害(PDD)に診断変更された症例の臨床的検討. 第94回日本小児精神神経学会, 2005,6, 東京. 日本小児精神神経学会第94回プログラム・抄録集, 19, 2005.

0531100

+岡本晋弥, +福本泰規, +増山宏明, +小沼邦男, +河野美幸, +伊川廣道, +柿沼宏明, +高橋弘昭, *田村知史, 畑郁江, 眞弓光文, *重松陽介: いわゆる濃縮胆汁症候群の所見を呈したシトリン欠損症の1例. 第42回日本小児外科学会. 2005.6.千葉. 日本小児外科学会雑誌, 41(4);705,2005.

0531101

大嶋勇成: 感染と気道アレルギー. 第3回西日本メデイエーター研究会, 2005, 7, 大阪.

0531102

古畑律代, 佐藤周子, 田村知史, 塚原宏一: 胎児期にPotter sequenceを疑われ、出生後urosepsisを呈した多発性嚢胞腎の1例. 第41回日本周産期・新生児医学会総会, 2005,7, 福岡.

0531103

佐藤周子, 塚原宏一, 古畑律代, 田村知史: 新生児骨代謝の評価: 特に塩酸リトドリン・硫酸マグネシウムの影響について. 第41回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2005,7, 福岡. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 41(2), 506, 2005,6.

0531104

塚原宏一, 佐藤周子, 古畑律代, 田村知史, +羽田敦子: 新生児における酸化ストレス、一酸化窒素産生の評価: 特異的尿マーカーを用いて. 第41回日本周産期・新生児医学会総会, 2005,7, 福岡.

0531105

塚原宏一, 佐藤周子, 古畑律代, 田村知史, +羽田敦子: 臍帯血中のPentosidine濃度の計測(胎児への酸化/カルボニルストレスの評価). 第41回日本周産期・新生児医学会総会, 2005,7, 福岡.

0531106

*佐々木綾子, 中井昭夫, *松木健一, *田邊美智子, 眞弓光文, *米倉義晴: 母性を育てる学習プログラム開発のための基礎的研究. 第5回日本赤ちゃん学会, 2005,7, 札幌.

0531107

+平林由紀子, +佐藤大樹, +内田真理子, 中井昭夫, +牧敦: MRIデータを用いた乳児頭部模型及びこれを用いた光トポグラフィープローブの製作. 第5回日本赤ちゃん学会, 2005,7, 札幌.

0531108

塚原宏一, 古畑律代, 田村知史, 眞弓光文, *西島浩二, *宿南憲一, +羽田敦子, *川上寿子, *内山真由実, *関根恭一, *三浦雅一: 胎児期から青年期にかけてのAdvanced glycation end-products生成の評価. 第14回発達腎研究会, 2005,9, 東京.

0531109

小俣合歓子, 山田彰子, 佐藤周子, 大嶋勇成, 眞弓光文: 当院で経験した新生児期発症のミルクアレルギー10例の検討. 第41回中部日本小児科学会, 2005, 8, 名古屋.

0531110

*重松陽介, 畑郁江, *田中幸枝: MS/MS新生児マススクリーニングにおける無誘導体化分析法の実用性に関する検討. 第33回日本医用マススペクトル学会, 2005,9, 大阪. 第30回日本医用マススペクトル学会年会プログラム・抄録集, 42,2005.

0531111

+荒瀬隆司, +但馬剛, +佐倉伸夫, 畑郁江, *重松陽介: 広島大学病院検査部における尿中有機酸分析の運用経験. 第33回日本医用マススペクトル学会, 2005,9, 大阪. 第30回日本医用マススペクトル学会年会プログラム・抄録集, 40,2005.

0531112

+梅田雄嗣, +吉田真, +鈴木信寛, +遠藤幹也, +佐藤篤, +堀浩樹, +磯貝光治, +松本公一, +原純一, +長谷川大一郎, +橋井佳子, +茶山光祐, +宮地良介, +西村真一郎, 谷澤昭彦, +宇佐美郁哉, +堀部敬三, +八木啓子: JACLS ALL-02施行中に生じた中枢神経系合併症のまとめ. 第67回日本血液学会・第47回日本臨床血液学会回総会, 2005, 9, 横浜. 日本血液学会・日本臨床血液学会回総会プログラム・抄録集67回47回号, 臨床血液, 46(8), 786, 2005, 8.

0531113

小俣合歓子, 山田彰子, 佐藤周子, 大嶋勇成, +木村宏輝, 眞弓光文: 病原性大腸菌O6がミルクアレルギー発症に関与したと思われる新生児例. 第55回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2005,10, 盛岡.

0531114

*重松陽介, 畑郁江, *田中幸枝: タンデム質量分析計によるアミノ酸とアシルカルニチン測定法の基礎. 第33回日本マス・スクリーニング学会, 2005,10. 久留米市. 日本マス・スクリーニング学会雑誌, 15(2):86,2005.

0531115

*重松陽介, 畑郁江, *田中幸枝, +但馬剛, +佐倉伸夫: 中鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症保因者のC8アシルカルニチン値の検討. 第33回日本マス・スクリーニング学会, 2005,10. 久留米市. 日本マス・スクリーニング学会雑誌, 15(2):51,2005.

0531116

+但馬剛, +佐倉伸夫, +夜船展子, +西村裕, +小野浩明, +中常千代美, +渡川美弥子, +柳川順子, +久保田美穂, +吉井千代子, +浜川以行, 畑郁江, *重松陽介: 高速液体クロマトグラフィによる2-Octenoyl-CoA定量法で酵素診断した中鎖アシルCoA脱水素酵素(MCAD)欠損症7例について. 第33回日本マス・スクリーニング学会, 2005,10. 久留米市. 日本マス・スクリーニング学会雑誌, 15(2):50,2005.

0531117

畑郁江, +小倉一将, *重松陽介: 脳腫瘍に合併した副腎皮質腫瘍の一女兒例. 第39回日本小児内分泌学会, 2005, 10, 東京.

0531118

畑郁江, *重松陽介: 新生児濾紙血を用いたチロシン血症 I 型のマススクリーニング. 第33回日本マス・スクリーニング学会, 2005,10, 久留米. 日本マス・スクリーニング学会雑誌, 15(2):59,2005.

0531119

古畑律代, 塚原宏一, 眞弓光文: 新生児期にUrosepsisとカンジダ腸炎を発症した胎児期発症型多発性嚢胞腎の1例. 第37回日本小児感染症学会総会, 2005,11, 津.

0531120

小俣合歓子, 山田彰子, 大嶋勇成, 眞弓光文: 血中アミラーゼが持続的高値を示したクローン病の一例. 第42回日本小児アレルギー学会, 2005,11, 福井.

0531121

鈴木孝二, 玉村宗一, 谷澤昭彦, 眞弓光文: 寛解導入療法中に縦隔気腫を合併した急性リンパ性白血病の一男児例. 第47回日本小児血液学会, 2005, 11, 宇都宮. 日小血会誌. 19(5),525, 2005,10.

0531122

+堀部敬三, +吉田真, +工藤亨, +堀浩樹, +駒田美弘, +原純一, +小田慈, +西村真一郎, 谷澤昭彦, +宇佐美郁哉, +八木啓子: 小児急性リンパ性白血病における染色体・遺伝子異常の頻度と予後との関連に関する検討. 第47回日本小児血液学会, 2005, 11, 宇都宮. 日小血会誌. 19(5),499, 2005, 10.

0531123

+茶山公祐, +堀部敬三, +鈴木信寛, +遠藤幹也, +佐藤篤, +堀浩樹, +磯貝光治, +松本公一, +原純一, +長谷川大一郎, +橋井佳子, +宮地良介, 谷澤昭彦, +宇佐美郁哉, +西村真一郎, +八木啓子: 小児急性リンパ性白血病における中枢神経単独再発のリスク因子に関する検討. 第47回日本小児血液学会, 2005, 11, 宇都宮. 日小血会誌. 19(5),355, 2005,10.

0531124

*重松陽介, 畑郁江, +但馬剛, +内藤悦雄: グルタル酸尿症I型患者の体液中3-hydroxyglutarate及びアシルカルニチン濃度の検討. 第48回日本先天代謝異常学会. 2005.11. 熊本市. 日本先天代謝異常学会雑誌. 21(2);141,2005.

0531125

+但馬剛, +佐倉伸夫, +夜船展子, +西村裕, +小野浩明, 畑郁江, *重松陽介: 高速液体クロマトグラフィ法による極長鎖アシルCoA脱水素酵素(VLCAD)欠損症の酵素診断. 第48回日本先天代謝異常学会. 2005.11. 熊本市. 日本先天代謝異常学会雑誌. 21(2);78,2005.

0531126

塚原宏一, 佐藤周子, 古畑律代, 田村知史, 巨田尚子: ヒト母乳中の一酸化窒素 (NO)、アドレノメデュリン (AM) 濃度の計測. 第50回日本未熟児・新生児学会, 2005,12, 名古屋.

0531127

徳力周子, 塚原宏一, 古畑律代, 田村知史, 眞弓光文: 新生児骨代謝の評価: 特に子宮収縮抑制剤の作用について. 第23回小児代謝性骨疾患研究会, 2005,12, 東京.

(3) 国内学会 (地域レベル)

a. 招待・特別講演等

0531128

大嶋勇成: 小児喘息患児・保護者の実態調査について (Add On 処方の実態を含めて). 福井県小児科医会学術講演会, 2005,4, 福井.

0531129

大嶋勇成: 環境ホルモン問題とアレルギーの接点. 第15回奈良小児アレルギーカンファレンス, 2005,5, 奈良.

0531130

平岡政弘: 小児腎尿路疾患の診断. 第284回日本小児科学会北陸地方会特別講演, 2005,6, 松岡.

0531131

大嶋勇成: 臨床的事実からみた衛生仮説の適否. 第9回神奈川免疫アレルギー同好会, 2005,8, 横

浜.

0531132

大嶋勇成：喘息治療ガイドラインと喘息管理プログラムについて. 福井県内科医会・小児科医会学術講演会, 2005,11, 福井.

b. シンポジスト・パネリスト等

0531133

塚原宏一：免疫・炎症性疾患と酸化ストレスマーカー. 第44回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会, 免疫・炎症性疾患の検査展望, 2005,3, 福井.

0531134

大嶋勇成：自己免疫疾患の画像. 平成17年度福井県小児科医会例会シンポジウム, 小児の画像診断, 2005,7, 福井.

0531135

塚原宏一：Clinically mild encephalitis/encephalopathy with a reversible splenic lesion: A New Clinicoradiological Syndrome. 小児科医会平成17年度第1回例会, 2005,7, 福井.

0531136

大嶋勇成：パネルディスカッション. 福井喘息座談会, 小児領域, 2005,9, 福井.

0531137

中井昭夫：経管栄養について. 第48回日本小児神経学会北陸地方会. 養護学校における医療的ケア. 2005,9, 金沢.

c. 一般講演等

0531138

塚原宏一：糖尿病と酸化ストレス. 第1回腎と循環くずりゅうセミナー, 2005,2, 福井.

0531139

畑郁江, 中井昭夫, 眞弓光文, *重松陽介, +田中篤志, +安藤 徹, +石上 毅：摂食障害に伴って成長障害を来した2例. 第19回北陸小児内分泌研究会, 2005, 2, 金沢.

0531140

古畑律代, 金谷由宇子, 塚原宏一, 谷澤昭彦, 平岡政弘, 眞弓光文：胎児エコーでPotter症候群を疑われ、出生後urosepsisの管理に難渋した多発性嚢胞腎の1女児例. 第84回福井県医学会会員研究発表会, 2005,5, 福井.

0531141

古畑律代, 金谷由宇子, 田村知史, 佐藤周子, 塚原宏一, 谷澤昭彦, 平岡政弘, 眞弓光文, *西島浩二, *宿南憲一：胎児期にPotter sequenceを疑われ、出生後にurosepsisを呈した多発性嚢腎の1例. 第35回京都腎臓免疫研究会, 2005, 5, 京都.

0531142

塚原宏一：本年（5年ぶりに）改定された食事摂取基準、特に、新生児・乳児へのビタミンについて. 第2回福井県立病院母子医療センター勉強会, 2005,7, 福井.

0531143

畑郁江, 小倉一将, 小俣合歓子, 谷澤昭彦, 眞弓光文, *重松陽介：NTBC投与が無効であったチロシン血症1型の1女児例. 第283回日本小児科学会北陸地方会, 2005, 3, 金沢. 日本小児科学会雑誌, 109(7), 924, 2005, 7.

0531144

塚原宏一, 小倉一将, 金谷由宇子, 佐藤周子, 古畑律代, 田村知史, 谷澤昭彦, 眞弓光文：生直後に著明な赤芽球増加、低血糖を呈した胎児水腫の極低出生体重児例: エリスロポイエチン（Epo）高値の生物学的意義について. 第7回未熟児新生児医療研究会, 2005,4, 京都.

0531145

田村知史, 鈴木千代, 谷澤昭彦, 眞弓光文, +斎藤正一：1歳5ヵ月時の心不全で気づかれたBland-White-

Garland症候群の1例. 第284回日本小児科学会北陸地方会, 2005, 6, 松岡. 日本小児科学会雑誌, 109(10), 1261-1262, 2005, 10.

0531146

田村知史, 鈴木千代, 谷澤昭彦, +齋藤正一, 眞弓光文: 1歳5か月時に心不全で発症した大動脈壁内走行を伴う左冠動脈肺動脈起始の一例. 第30回北陸小児循環器研究会, 2005,9, 金沢.

0531147

塚原宏一, 徳力周子, 古畑律代, 田村知史, 眞弓光文: 本年改定された「食事摂取基準」、新生児・乳児へのビタミン投与について. 第8回未熟児新生児医療研究会, 2005,10, 大阪.

0531148

塚原宏一, 徳力周子, 古畑律代, 田村知史, 眞弓光文: 改定された「食事摂取基準」、新生児・乳児へのビタミン投与について. 第19回北陸周産期・新生児研究会, 2005,10, 金沢.

0531149

池田英子, 鈴木孝二, 畑 郁江, 谷澤昭彦, 眞弓光文, +小崎浩一, +高田泰次: 生体肝移植後に右横隔膜ヘルニアを発症した一例. 第285回日本小児科学会北陸地方会, 2005, 12, 富山.

0531150

+西尾夏人, +荒木来太, +黒田文人, +堀澤徹, +北野裕之, +上野康尚, +堀田成紀, +久保実, *重松陽介, 畑郁江, +山口清次: 重症型で発症した極長鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症の兄弟例. 第285回日本小児科学会北陸地方会. 2005.12.富山市.

(4) その他の研究会・集会

a. 招待・特別講演等

0531151

眞弓光文: 小児アレルギー疾患の病態と治療. 筑後小児科医会セミナー特別講演, 2005,1, 久留米.

0531152

大嶋勇成: 小児気管支喘息の病態と長期管理の考え方. Airway Forum in Fukui, 2005,2, 福井.

0531153

平岡政弘: 小児科腎臓外来の20年を振り返って. 平成17年度福井県小児科医会総会特別講演, 2005,3, 福井.

0531154

眞弓光文: 小児アレルギー疾患の病態と治療. 平成16年度長崎県アレルギー講習会特別講演, 2005,3, 佐世保.

0531155

眞弓光文: 小児アレルギー疾患の病態と治療. 第1回小児気管支喘息研究会特別講演, 2005,3, 大阪.

0531156

眞弓光文: 小児アレルギー疾患の病態と治療. 第125回東三河小児科医会総会・学術講演会特別講演, 2005,4, 豊橋.

0531157

眞弓光文: JPGL2002の改訂に向けて. 第8回小児アレルギー懇話会特別講演, 2005,7, 大阪.

0531158

眞弓光文: 小児アレルギーの早期治療介入. 第24回西日本看護研究会特別講演, 2005,8, 福岡.

0531159

眞弓光文: 小児アレルギー疾患のearly intervention —その理想と現状—. 第33回西日本小児アレルギー研究会特別講演, 2005,8, 福岡.

0531160

中井昭夫: いわゆる軽度発達障害の診断・治療の現状と課題. 小児発達障害 福井フォーラム, 2005,8, 福井.

0531161

中井昭夫：乳児の脳の発達について。大野地区保育会研修会，2005,10，大野。

0531162

眞弓光文：小児喘息の最新の診断と治療。日本アレルギー協会アレルギー研修会2005 in 横浜 特別講演，2005,10，横浜。

0531163

眞弓光文：小児気管支喘息の病態と治療。石川小児科医会秋季例会特別講演，2005,11，金沢。

0531164

眞弓光文：小児気管支喘息の病態と治療。日本アレルギー協会東北支部学術講演会特別講演，2005,11，仙台。

0531165

中井昭夫：Lennox-Gastaut症候群について。福井県立盲学校事例検討・学習会，2005,12，福井。

0531166

眞弓光文：小児喘息ガイドライン2005について。第1回福井小児境界領域疾患研究会特別講演，2005,12，福井。

b. 一般講演等

0531167

平岡政弘：尿路感染症の診断、治療、管理システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究「小児難治性腎尿路疾患の早期発見、診断、治療・管理に関する研究」班会議，2005,1，東京。

0531168

畑郁江，*重松陽介：新生児濾紙血を用いたチロシン血症1型のマス・スクリーニングの試み。平成16年度厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）分担研究『タンデムマスによるマススクリーニングの効果に関する研究』全体班会議，2005，2，東京。

0531169

眞弓光文，大嶋勇成：アレルギー性疾患の発症危険因子の同定と予防対策の検討。平成16年度福井大学学長裁量経費等による重点研究成果発表会，2005,3，松岡。

0531170

塚原宏一，大嶋勇成：病的新生児、特に超低出生体重児の「後遺症なき生存」を目指して：当院未熟児診療部における“レドックス（抗酸化ストレス）療法”の推進とその評価。平成16年度福井大学学長裁量経費等による重点研究成果発表会，2005,3，松岡。

0531171

中井昭夫，*三橋美典，*松木健一，*熊谷高幸，眞弓光文，*米倉義晴：注意欠陥・多動性障害、高機能自閉症、学習障害などのいわゆる軽度発達障害の診断、治療・療育効果の評価のための脳科学的アプローチ。平成16年度福井大学学長裁量経費等による重点研究成果発表会，2005,3，松岡。

0531172

鈴木孝二，谷澤昭彦，眞弓光文：再移植生着後に輸血不応性の血小板減少症および重篤な肝機能障害をきたした一男児例。第24回福井移植と大量化学療法研究会，2005，6，福井。

0531173

畑郁江，*重松陽介，+清水留美子，*北山富士子，*吉澤正尹，+坂後恒久：「福井県小児糖尿病家族会」～発足までの歩みと今後の活動～。第34回福井県小児保健協会学術集会，2005，7，福井。

0531174

畑郁江，金谷由宇子，田村知史，眞弓光文，*重松陽介：テトラヒドロビオプテリン反応性高フェニルアラニン血症の一例。第21回北陸内分泌・代謝談話会-福井例会，2005，9，福井。

0531175

谷澤昭彦：成人型CMLの4歳女児:UBMTそれともイマチニブの継続投与か？。第25回福井移植と大量化学療法研究会，2005，11，福井

0531176

塚原宏一：尿路感染症の診断、治療、管理システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究「小児

(ウ) その他特記事項

大嶋勇成：子どものアレルギーについて part2.アトピー性皮膚炎 ほっと，10,6-7，(2006) 福井市企画政策部 男女共同企画室・少子化対策センター内「ほっと」係
中井昭夫: 福井新聞 「小児発達障害 支援の輪を」 2005年8月16日 朝日新聞 まちかど通信 2005年8月22日

4. グラント取得

(ア) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	氏名 <small>(代表・分担の別)</small>	期間 (年度)	金額 (配分額)	備考 (代表者名)
COE	生体画像医学の総合研究プログラム	脳発達に関する研究	眞弓光文 (分担)	H17	5,100 千円	+米倉義晴

区分	課題名	研究種目	代表者名	分担者名	期間 (年度)	金額 (配分額)
文部科学省科学研究費補助金	胎児・胎盤機能を維持する分子機構の解明と周産期疾患の治療介入についての統合的研究	基盤 (B)	眞弓光文	塚原宏一	H17~19 (17年度)	5,100千円
文部科学省科学研究費補助金	先天性腎疾患の早期発見のための3歳児検尿の施行法および費用対便益の検討	基盤研究(C)(2)	平岡政弘	塚原宏一	H16-18 (17年度)	1,100千円
文部科学省科学研究費補助金	末梢血線維細胞の機能解析による気道リモデリングの危険因子の同定と予防法の検討	基盤研究 (C)	大嶋勇成		H17-18 (17年度)	2,500千円
文部科学省科学研究費補助金	糖尿病血管系合併症における分子機構の解明と治療戦略への応用	基盤研究 (C)	塚原宏一		H17-18 (17年度)	2,500千円
文部科学省科学研究費補助金	低アレルゲン化食物抗原を用いた経口免疫寛容誘導による食物アレルギー治療法の開発	若手研究(B)	小俣合歓子		H17-18 (17年度)	2,300千円
厚生労働省科学研究費補助金	食物アレルギーの実態及び誘発物質の解明に関	感覚器障害及び免疫・アレ	+海老沢元宏	大嶋勇成 眞弓光文	H15~17 (17年度)	2,500千円

	する研究	ルギー等 研究事業				
厚生労働省科学 研究費補助金	小児難治性尿路 疾患の早期発 見、診断、管 理・治療に関す る研究	子ども家 庭総合研 究事業	+五十嵐隆	塚原宏一 平岡政弘	H16~18 (17年度)	450千円
その他のグラン ト 政府関連等 民間財団等	気管支ぜん息等 の発症・増悪リ スクとしての環 境要因の寄与の 程度に関する研 究	(独)環 境再生保 全機構 「大気汚 染による 健康影響 に関する 総合的研 究」	+工藤翔二	眞弓光文	H15~17 (17年度)	4,000千円
その他のグラン ト 政府関連等 民間財団等	内分泌攪乱物質 がヘルパーT細 胞分化に及ぼす 影響：アレル ギー性疾患の増 加との関連性	日本化学 工業協会 LRI自主研 究	大嶋勇成		H16.9.1 17.8..31 ~	4,000千円
福井大学重点研 究	アレルギー性疾 患の発症危険因 子の同定と予防 対策の検討	基礎的・萌 芽的研究	眞弓光文 (代表)	大嶋勇成(共 同研究者)	H17	1,000千円
福井大学重点研 究	超早産(在胎28 週未満)で出生 した児の水電解 質代謝の評価と その制御:輸液 療法のガイドラ イン作成に向け て	競争的配 分経費	塚原宏一 (代表)	大嶋勇成(共 同研究者)	H17	500千円
福井大学重点研 究	注意欠陥多動障 害、高機能自閉 症、学習障害な どいわゆる軽度 発達障害の診 断、治療・療育 効果の評価のた めの脳科学的ア プローチ	競争的配 分経費	中井昭夫 (代表)		H17	500千円
福井大学重点研 究	子どもの「心の 発達」の特性と その障害支援に 対する学際的ア プローチ	学部間学 内共同研 究にかか る公募採 択型研究 費	眞弓光文 *三橋美典 (代表)	中井昭夫(共 同研究者)	H17	450千円

(イ) 奨学寄附金

受入件数	11 件
------	------

受入金額	20,932,652 円
------	--------------

5. その他の研究関連活動

(ア) 学会開催等

区 分	主催・共催の別	学 会 名	開催日	開催地
国内学会（全国レベル）	主催	第42回日本小児アレルギー学会	2005.11.19～20	福井市
国内学会（地方会レベル）	主催	第284回日本小児科学会北陸地方会	2005.6.12	福井
その他	主催 主催 共催 主催	第34回福井県小児保健協会学術集会 第35回福井県小児保健協会学術集会 第3回福井県小児内分泌代謝研究会 小児発達障害ふくいフォーラム	2005.3.5 2005.7.30 2005.5.21 2005.8.20	福井 福井 福井 福井

(イ) 学会の実績

学 会 の 名 称	役 職 名	氏 名
・日本小児アレルギー学会	理事	眞弓光文
・日本小児科学会	代議員	眞弓光文
・日本アレルギー学会	代議員	眞弓光文
・日本アレルギー学会	プログラム委員	眞弓光文
・日本感染症学会	評議員	眞弓光文
・日本小児呼吸器疾患学会	運営委員	眞弓光文
・日本小児呼吸器疾患学会	セミナー委員	眞弓光文
・日本小児感染症学会	運営委員	眞弓光文
・日本周産期・新生児医学会	評議員	塚原宏一
・日本腎臓学会	評議員	塚原宏一
・日本小児腎臓病学会	評議員	塚原宏一
・小児代謝性骨疾患研究会	幹事	塚原宏一
・小児続発性骨粗鬆症研究会	幹事	塚原宏一
・日本赤ちゃん学会	評議員	中井昭夫
・日本小児神経学会	社会活動支援委員	中井昭夫
・日本小児神経学会	北陸地方会幹事	中井昭夫

(ウ) 座長

国際学会	学 会 名	氏 名
招待・特別講演等	APAPARI-KAPARD Joint Congress 2005. Plenary Lecture. 「Vaccination」. The 15 th Congress of Interasma Japan/North Asia.	Mayumi, M. Mayumi, M
国内学会（全国レベル）	学 会 名	氏 名
招待・特別講演等	日本LD学会 第14回大会	中井昭夫
シンポジウム	第13回小児臨床薬理・アレルギー・免疫研究会 第12回小児気道アレルギー研究会 第17回日本アレルギー学会春季臨床大会 第55回日本アレルギー学会秋季学術大会 第37回日本小児感染症学会	眞弓光文、+河野陽一 眞弓光文 眞弓光文、+一ノ瀬正和 眞弓光文、+千田勝一 眞弓光文、+森島恒雄

(エ) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	委員長（主査）・委員の別	氏名
日本小児科学会雑誌	編集委員	眞弓光文
日本小児アレルギー学会雑誌	編集委員長	眞弓光文
日本小児感染症学会雑誌	編集委員	眞弓光文
日本アレルギー学会雑誌	編集委員	眞弓光文
Allergology International	編集委員	眞弓光文
World Journal of Pediatrics	編集委員	眞弓光文
日本赤ちゃん学会雑誌「ベビーサイエンス」	編集委員	中井昭夫

6. 産業・社会への貢献

(ア) 国・地域等への貢献

(1) 審議会、委員会等

区分	審議会、委員会等の名称	役職	氏名	開催日
国	厚生労働科学研究評価委員会	委員	眞弓光文	2005.1.31～2.1
	新生児医療連絡会	地区代表	塚原宏一	2002～
地方自治体	福井県心身障害児就学指導委員会	委員 委員 委員 委員	眞弓光文 眞弓光文 眞弓光文 塚原宏一	2005.1.12, 10.12 2005.3.24 2003～
	福井県周産期医療協議会			
	福井県健康づくり推進協議会母子保健部会			
	福井県難病対策協議会小児慢性特定疾患認定審査部会			
公益法人等	福井県小児科医会	理事	塚原宏一	2003年～
	福井県女医会	理事	畑郁江	2003年～

(2) 専門職業人に対する研修・セミナー等

区分	研修・セミナー等の名称	役職	氏名	開催日
地方自治体	福井糖尿病療養指導担当者講習会	講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師 講師	畑郁江 畑郁江 塚原宏一 中井昭夫 中井昭夫 中井昭夫 中井昭夫 中井昭夫 中井昭夫 川谷正男 川谷正男	2005.5
	福井県教育委員会 養護教員ステップアップ研修			2005.8
	福井県消防学校			2005.9
	福井県教育委員会 養護教員ステップアップ研修			2005.10
	福井県教育委員会 養護教員ステップアップ研修			2005.10
	福井県教育委員会 養護教員ステップアップ研修I			2005.10
	福井県教育委員会 養護教員ステップアップ研修II			2006.1
	大野地区保育会研修会			2006.3
	福井県立盲学校事例検討・学習会			2006.1
	福井県立盲学校医療的ケア講習会			2006.1
	福井県立東養護学校医療的ケア講習会			2006.1
	公益法人等			財団法人日本アレルギー協会中央講習会
三菱化学本社講演会		講師	塚原宏一	2005.11
”				2005.11
	”			2005.11

(3) 教育委員会、学校との連携・協力による活動

活動内容	氏名

(4) 一般社会人学習等への貢献

活 動 内 容	氏 名
A：公開講座 主催者：福井県こどもの健康週間実行委員会, 対象者：三谷館保育園保護者・職員, 参加人数：20名程度, 講座名：食物アレルギー・こどもの生活習慣病	山田彰子
C：武生高校スーパー講座 「赤ちゃん学」のススメー小児科学の新しい流れー	中井昭夫 大嶋勇成
平成17年度SSH研究開発連携事業探究理科II（生物）出張授業 「アレルギー性疾患の免疫学的機序について」 高志高校	中井昭夫 川谷正男
D：福井県特殊教育センター 巡回教育相談 福井県特殊教育センター 巡回教育相談 福井県小児糖尿病サマーキャンプ	畑郁江

(5) 公益法人・会社等への参加状況

名 称	役 職	氏 名
財団法人母子保健衛生研究会	顧問	眞弓光文
財団法人日本アレルギー協会	理事、北陸支部長	眞弓光文
NPOバリアフリー推進協会	理事	眞弓光文